HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

Exophthalmos associated with chronic progressive external ophthalmoplegia

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2025-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武田, 優 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000429

論文審査の結果の要旨

慢性進行性外眼筋麻痺（chronic progressive external ophthalmoplegia: CPEO）は、ミトコンドリア脳筋症の一病型であり、眼球運動障害および眼瞼下垂を主徴とする。確定診断は、筋生検による赤色ぼろ線維の検出および PCR またはサザンブロット法によるミトコンドリア DNA（mtDNA）の欠失の検出によって行われるが、眼球突出を伴うことは一般的に知られていない。本論文は、CPEO に伴う眼球突出の合併割合およびその発症機序を明らかにすることを目的とした。

本研究では、2010 年から 2018 年に浜松医科大学医学部附属病院眼科を受診し、PCR 法で mtDNA 欠失が確認された CPEO 患者 7 例を対象に、後ろ向きに解析を行った。浜松医科大学臨床研究倫理委員会の承認を受け実施された（承認番号:14-040）。7 例のうち 5 例は口腔粘膜、1 例は唾液、1 例は筋組織から mtDNA 欠失が検出されたが、血液からの検出例はなかった。MRI または CT、ヘルテル眼球突出計により、7 例中 5 例（約 70%）で眼球突出が認められ、4 例が両側性、1 例が片側性 であった。MRI および CT 所見では、眼球突出を呈する症例において外眼筋萎縮が認められたことから、眼球保持力の低下が眼球突出の一因である と考えられた。一般的に CPEO では眼球突出はみられないとされているが、本研究では 7 例中 6 例に眼瞼下垂を認めたことから、眼瞼下垂の影響で眼球突出が見過ごされている可能性がある。また、眼球突出の自覚がない症例も含まれており、診断の遅れに寄与している可能性も示唆された。したがって、進行性の眼球運動障害や眼瞼下垂、眼球突出が認められた場合には、CPEO を鑑別診断に加える必要がある。

審査委員会では、本研究が CPEO の早期診断および適切な管理に貢献する重要な報告である点を高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしい内容であると審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者　　主査　黒住　和彦
　　副査　才津　浩智　　副査　三澤　清